

原口選手 雪辱のV 奥井選手1年生王者



決勝戦で果敢に攻める原口選手(青)
▲松尾/アフロスポーツ

昨年12月19日から22日にかけて、全日本レスリング選手権が東京・駒沢体育館で開催され、男子フリースタイル70kg級では原口伸選手(体3年)が、同79kg級では奥井真

吉選手(体1年)がそれぞれ優勝を果たした。原口選手は、昨年8月の全日本学生選手権で1年とこの同時開催となった決勝で惜敗したが、今大会の準決勝で再び同級と対戦し、学生チャ

ンビオンを相手に、原口選手は先輩としての意地を見せ、3-0の完勝。4カ月前の雪辱を果たした。原口選手は勢いそのままに、決勝戦でも安定した試合運びで内容勝ちし、全国の頂点に上りついで、世界選手権出場への選手を内容勝ちで下し、1年生にして全日本王者の座に就いた。

奥井選手の兄で本学卒業生の奥井真選手は同74kg級に出場。昨年6月の全日本選抜大会での優勝に続き、今大会での優勝がオリンピック代表決定条件だったが、惜しくも敗れ、2月のオリンピック代表決定プレーオフに持ち越された。

「悔しい結果」後輩へ望み
箱根駅伝
第96回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)が1月2、3日開催され、4年連続18回目の出場となった本学は、4年ぶりにタスキをトールする運びとなった。総合順位は11時間13分35秒。往路の区間(フイモイ・ウイセント)選手(21歳)は、20位タスキを受け、4人抜きを

走でチーム順位を16位に引き上げ、自身も区間4位の成績を残した。復路は、4年ぶりにタスキをトールする運びとなった。総合順位は11時間13分35秒。往路の区間(フイモイ・ウイセント)選手(21歳)は、20位タスキを受け、4人抜きを

センプツが見えた！
優勝を決めマウンドに集まるナイン

令和元年度秋季東京都高等学校野球大会の決勝戦が昨年11月10日、東京・明治神宮球場で行われ、国士館高校が6-0で帝京高校を破り、2年連続7回目の優勝を決めた。試合は3回清水武蔵選手(1年)が左中間を破る二塁打を放ち、試合を優位に進めた。投げた走塁で加点し、試合を優位に進めた。投げた走塁で加点し、試合を優位に進めた。

友清選手 初の栄冠 磯田、山本選手も健闘3位

柔道講道館杯
2019年度後期の全日本強化選手と東京2020年11月2、3日、千葉市

トアリーナで開催された、男子81kg級の友清光選手(体3年)が初優勝を飾った。

友清選手が出場した81kg級には32人がエントリーし、友清選手は1回戦から4試合を勝ち抜き、決勝まで駒を進めた。決勝戦は前回大会優勝の選手との対戦、試合は均衡した展開が続き、ゴールファンゴ(GS)、延長戦に突入した。延長4分25秒、友清選手は

川東、喜田選手が個人総合優勝

全日本新体操
昨年10月18日から20日にかけて千葉市トアリーナで全日本新体操選手権大会が開催され、本学

は男子個人総合で川東拓斗選手(体4年)が初優勝、女子では喜田純緒選手(21歳)が個人総合で2冠を挙げ、初の全日本代表選手として

4選手全員「金」

日本ハル
水泳選手権
昨年11月23日から24日にかけて第36回日本ハル水泳選手権大会が千葉市・国

寒稽古15種目で演武 気合込めて3577人

国士館武道教育の一環として実施する毎年恒例の寒稽古が1月7日から4日間、世田谷、町田、多摩の各キャンパスで活

高部外野手ロツテ入団

昨年10月17日に開催されたプロ野球ドラフト会議で硬式野球部の高部瑛斗選手(21歳)が、東北楽天ゴールデンイーグルスから3位指名を受けた。高部選手は山梨県出身で、海大甲府高校出身で、入学当初からレギュラー選手として活躍した。

活躍するスポーツ

【柔道】クラウンドラム大阪019(11/22) 3位 飯田健太郎(体3年) 男子100kg級
【柔道】全日本学生体育別団体優勝大会(11/19/20) 2位 国士館学
【柔道】全日本学生体育別団体優勝大会(11/19/20) 2位 国士館学
【レスリング】全日本学生選手権(11/9) 57kg級 2位 阿部敬弥(体3年) 65kg級 2位 上野十紘(体3年)
【居合道】第52回全日本学生大会(10/27) 2位 国士館学
【体操】第74回全日本個人総合選手権大会(12/1) 3位 平井美優(体3年) 中学・高校
【柔道】2019年クラウンドラム福岡国際中学生大会(12/26) 優勝 国士館中学校

女子 念願の初優勝

組手団体
全日本大学空手道選手権

悲願の初優勝を決めた空手道部(女子)

昨年11月10日に愛知県・スカイホール豊田で第63回全日本大学空手道選手権大会が開催され、本学は女子組手団体で念願の初優勝に輝き、前回大会で初優勝した男子組手団体は3位入賞を果たした。本学は形でも強さを発揮し、男子は準優勝、女子も3位入賞と活躍、男女団体4種目のすべてで3位以内に入賞したのは本学だけだった。

目指せ！国士館から東京五輪へ

いよいよ東京2020大会が目前に迫ってきました。本学からも、多くの選手が代表争いに加わる一方で、コーチとして日本代表チームの強化にあたる指導者もいます。今回はその一人、空手道部の亀山歩監督にインタビューし、指導法や目標、空手道界の動向などを伺いました。

「人間性を問われる競技」 代表と大学で科学的指導

「各選手が自主性を持って練習する。これが現在の空手道部の特徴です。これが代表チームを育てていくための鍵です。空手道は転倒を繰り返す競技で、科学的な指導が不可欠です。科学的な指導は、選手の身体能力を最大限に引き出し、怪我を予防し、パフォーマンスを向上させることに役立ちます。科学的な指導は、選手の身体能力を最大限に引き出し、怪我を予防し、パフォーマンスを向上させることに役立ちます。

「悔しい結果」後輩へ望み

「悔しい結果」後輩へ望み
箱根駅伝
第96回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)が1月2、3日開催され、4年連続18回目の出場となった本学は、4年ぶりにタスキをトールする運びとなった。総合順位は11時間13分35秒。往路の区間(フイモイ・ウイセント)選手(21歳)は、20位タスキを受け、4人抜きを

センプツが見えた！

優勝を決めマウンドに集まるナイン

秋季都大会で優勝

令和元年度秋季東京都高等学校野球大会の決勝戦が昨年11月10日、東京・明治神宮球場で行われ、国士館高校が6-0で帝京高校を破り、2年連続7回目の優勝を決めた。試合は3回清水武蔵選手(1年)が左中間を破る二塁打を放ち、試合を優位に進めた。投げた走塁で加点し、試合を優位に進めた。

活躍するスポーツ

【柔道】クラウンドラム大阪019(11/22) 3位 飯田健太郎(体3年) 男子100kg級
【柔道】全日本学生体育別団体優勝大会(11/19/20) 2位 国士館学
【レスリング】全日本学生選手権(11/9) 57kg級 2位 阿部敬弥(体3年) 65kg級 2位 上野十紘(体3年)
【居合道】第52回全日本学生大会(10/27) 2位 国士館学
【体操】第74回全日本個人総合選手権大会(12/1) 3位 平井美優(体3年) 中学・高校
【柔道】2019年クラウンドラム福岡国際中学生大会(12/26) 優勝 国士館中学校